

岩手県立宮古北高等学校 平成28年度第2回学校評議員会

平成29年2月22日（水）本校大会議室で実施

学校評議員名簿（出席者）

氏名	所属（役職）
なか や ゆたか 中 屋 豊	宮古市立田老第一中学校 校長
さわ ぐち よし あき 澤 口 義 明	田老ガス水道設備工業
あか ぬま よし のり 赤 沼 喜 典	株式会社三陸鉄道 旅行サービス部長

（本校職員の出席者）

佐藤 有（校長） 嶋 隆（副校長） 佐藤 達夫（事務長）
 山田 英之（校務渉外課長） 植木 淳（学習指導課教務主任）
 勝又 靖（生徒指導主事） 廣瀬 謙三（学習指導課進路指導主事）
 山崎 満寿美（保健主事）

（目的）

本年度の学校概況および学校運営方針を明らかにすると共に、その運営方針に基づいた各分掌の教育指導計画、各学年及び各教科の年間教育指導計画を明示しながら、地域に開かれた特色ある学校づくりをより一層推進するために、学校活性化のための方策について意見を集め、本校教育の充実発展に寄与することを目的とする。

（学校概況説明）

学習指導…わかりやすい授業を行っていると感じた生徒の割合は85%（目標）に対して82%。若干数字が下がっている。来年度から観点別評価になる。学校設定科目について、今後、さらに研究し、改善していきたい。

進路指導…大学合格者が2名（目標）に対して1名だったので具体的な取組を考えていきたい。

教育相談…スクールカウンセラーや外部機関との連携を通して一人ひとりの生徒理解に努めていきたい。

生徒指導…あいさつ運動を月に1回、生徒会執行部で行っている。生徒主体の行事運営を通して一人ひとりの成長の場面を作っていきたい。

復興教育…ボランティア活動へ積極的に参加している。活動を通して地域の再発見につながっている。新聞・テレビでも取り上げられた。

校務渉外…来年度のPTA総会は、平日の金曜日を計画している。学年PTA出席率は、宮古地区では2番目の高さである。あいさつ運動は保護者にも参加していただいた。

(質疑応答)

■学習・進路指導

読書用の本は生徒が買っているのか。

→自分で本を買う生徒も多い。図書館から借りる者もあり、担任がクラスに配置するなどしている。

■生徒指導／復興教育、防災・安全指導

学習も大切だが、それ以外でもボランティア活動への参加や他校との交流が生徒を育てている。他校にはない宮古北高のよさである。

平館高校とのスキー交流はどこから補助をいただいているのか。

→八幡平市と平館高校の教育振興協議会から補助をいただいている。

「部活動・学校行事が活発」と答えた生徒の割合が高いのに対し、「学校生活が充実している」と答えた生徒の割合が低いのはなぜだと考えるか。

→生徒が一人何役も担当して活躍する学校行事に対して、日常の生活を地味に感じているのではないか。

高校生活に華やかなイメージを抱いているのではないか。

ボランティア活動には何人くらい参加しているのか。

→ボランティア活動によっても異なるが、生徒会執行部の中で5名程度積極的に参加している生徒がいる。

生徒会執行部を中心になって積極的に周囲にも呼びかけ、ボランティア参加の輪が広がるとよい。

■いじめ対策委員会

県内高校のいじめへの状況、取組はどうか。

→本校同様、小さなことも見逃さずに対応しており、認知も増えていると思われる。

■復興担い手育成支援事業

ボランティア活動への積極的な参加などにも事業の効果が現れていると考えてよいのではないか。

「予算不足」について説明してほしい。

→予算が縮小されているため、他にも実施したい事業があるが、応援団リーダー研修を優先して実施している。日程も縮小している。

山田中学校は修学旅行で早稲田大学を訪れ、応援体験をしている。全校生徒を対象に早稲田大学の応援部による応援練習を行ってもよいのではないか。

評価はBだが、Aに近いものと評価してよいのではないか。

(評議員助言)

評価指標の目標に達していないということだが、数字を上げるために内容を簡単にするようなことがあってはならない。様々な取組を通じて努力していることが十分うかがえる。保護者の評価が高いのは信頼されているということである。岩手日報「声」欄の投稿は中学校でも紹介し、生徒の刺激になっている。素晴らしい取組である

地域の児童生徒数の減少にもかかわらず、高校入試の志願者数を維持しているのは学校の取組が地域からも評価されているのではないか。特色ある学校づくりを進めて欲しい。